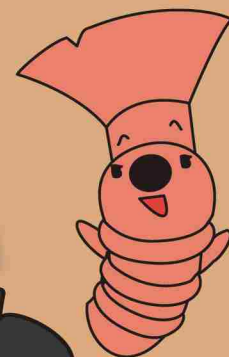


北真経寺

きたしんきょうじ



昔、お坊さんの学校が
あったのだって……



真経寺の国指定重要文化財



尊性法親王の書状

正式な名称は「尊性法親王消息翻摺法華経十巻」です。尊性法親王の書状を集め巻物にし、裏に「法華経」を木版刷りにしたものです。親王は、後堀河天皇の兄で、15才で出家し、1227年(安貞元年)に天台座主となった人物(1194-1239)。

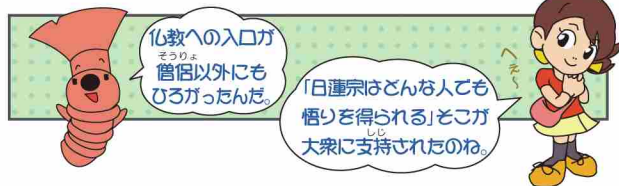
鎌倉時代の朝廷や仏教界の様子を知る貴重な歴史資料になっています。重要文化財として国の指定を受け、南・北西真経寺が共有保管しています。



「日蓮宗」とは？



日蓮がはじめた宗派で、当初「法華」や「日蓮法華宗」と呼ばれていました。1253年(建長5)4月28日正午、清澄寺諸仏坊持仏堂の南面で、日蓮は釈迦のいくつかの教えの中でも法華経が最高のものであると悟りました。仏教的な知識のない人々に、「南無妙法蓮華経」を唱えることで自己を信じ、人をも導く実践となると伝え、宗派を開くことを宣言、日蓮宗が生まれました。



「鶏冠井題目踊」とは？



鶏冠井村は日蓮の孫弟子、日像によって改宗された西日本最古の「皆法華(村人全員が法華経を信仰)」の集落でした。

「鶏冠井題目踊」は、村人が改宗の喜びを野良着と管笠のまま、太鼓をたたき、「南無妙法蓮華経」の題目を唱えながら踊ったのがはじまりとされます。

府の無形文化財に指定されていて、毎年5月3日に石塔寺で催されます。



発行 向日市教育委員会

〒617-8665 京都府向日市寺戸町中野20番地 TEL.075-931-1111

北真経寺について

正式名称は、日蓮宗「鶏冠山真経寺」といいます。1307年(徳治2)日蓮の孫弟子の日像が、鶏冠井の真言寺の住職、実賢に日蓮宗の教義を説き、村民すべてとともに改宗させ、法華信仰の中心地となりました。

1654年(承応3)、僧侶の学問所「鶏冠井檀林」を開き、真経寺を南北に分けて、北真経寺を檀林、南真経寺を宗教活動の場としました。

江戸時代初期に南真経寺は現在の地に移転、北真経寺も1875年(明治8年)檀林の廃止を機に一般の宗教活動の場として、今日に至っています。

江戸時代の様子

～鶏冠井檀林～

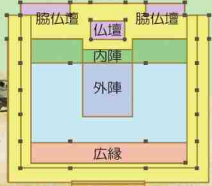
鶏冠井檀林は、日蓮宗「京都六檀林」のひとつで、日祥によって「鶏冠井山北真経寺学校」として開校されました。当初、真経寺の本堂と屋敷を借りていましたが、次第に学舎を整備、方丈(客殿・台所)や寮、さらに鐘撞堂が建てられ「檀林」の形態が整えられました。

檀林では、9棟の寮で数十人～百人が学び、多くの指導者が育ちました。

江戸時代の北真経寺の様子



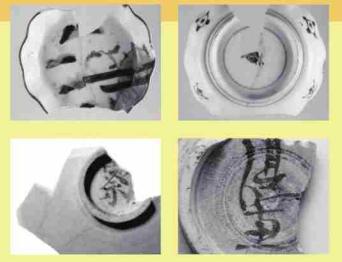
旧「講堂」は、現在「本堂」となっています。江戸時代当時の姿をよくとどめているので府の「登録文化財」とされています。



くらべよう 現在の北真経寺



「檀林」の学問僧たちは、どんな生活をしていたの？



彼らが日常使用していたと思われる硯や陶磁器、僧の名前や寮名が書かれた茶碗、火鉢などが出土しています。